

第24回秋田県特別支援学校総合体育大会

「ボッチャ競技」実施要項

- 1 日 時 令和7年9月12日（金） 10:30～15:00
2 会 場 あきた総合支援エリア「大体育館」
3 監督会議 10:15 【体育館本部前】
4 競技規則 日本ボッチャ協会競技規則 2021-2024v.1 及び、本大会申し合わせ事項による。
5 競技方法

(1) 競技形式

- ・トーナメント方式 ※エントリー数により予選リーグや交流戦の実施に変更する。
- ・1試合2エンドマッチとする。2エンドのポイント総数で勝敗を決める。

(2) 競技区分

- ①小学部・中学部の部門 ②高等部の部門 (注) 車いす等使用は不問

(3) チーム編成について

- ・各校小・中学部2チームまでのエントリーとし、1チーム5名（内、控え選手2名）までとする。
- ・各校高等部2チームまでのエントリーとし、1チーム5名（内、控え選手2名）までとする。
- ※3名対2名の試合になった場合、2名のチームは1名が3球投げ、勝敗を付け勝ち上がりとする。チームで1名の場合は、6球投げ、交流戦となり勝ち上がることができない。チームで1人の場合は、同じ学校のチームと合流することができる。

(4) 競技要領と開始について

- ・赤・青サイドの両者（両チーム）に6球のカラーボールが与えられ、投げる、転がす、蹴るなどしてジャックボール（目標球）にいかに近づけるかを競う。
- ・審判立ち会いの下、両者（両チーム）が赤・青サイドのどちらで試合をするかを決める。
- ・赤サイドが1番・3番・5番のスローイングボックスで、青サイドが2番・4番・6番のスローイングボックスで試合を行う。
- ・ジャックボールを投球した選手が、最初のカラーボールの投球をして競技開始となる。
- ※ジャックボール投球が無効球になった場合、以後の投球順はボックス番号3→4→5→2→1→6とする。
- ・エンド間に1分間の作戦タイムを設ける。
- ・持ち込みのカラーボールは、審判の使用許可を得たものは使用できる。申込書に使用希望の有無を記載すること。

(5) 得点及び勝敗について

- ・得点はジャックボールに近いボール1球につき1点が与えられ、全てのエンドの終了後、総得点が多いサイドが勝利となる。
- ・ジャックボールから等しい距離に1球ずつもしくはそれ以上の赤・青のカラーボールがある場合、ボール1球につき1点ずつ双方のサイドに与えられる。
- ・同点の場合は、1球ずつ投球してクロスに近い方を勝者とする（特体連版ファイナルショット制度）。

(6) ルール

- ・競技中はコーチ、アシスタント、控え選手とコミュニケーションをとってはならない。
- ※チーム戦はサイド内の選手同士であれば相談することができる。
- ※投球時のみ自分のアシスタントに指示をすることができる。
- ※選手は審判に要請し、ボールがどのように配置されているかを確認することができる。
- ・投球時、スローイングラインを越えたり踏んだりしてはならない。
- ・投球時、臀部が車いすのシートから離れてはならない。

(7) 競技アシスタントについて

- ・選手へのアドバイスや合図を送ることはできない。
- ・相手の競技中に車いすやランプの調整、ボールを丸めるなどの投球準備をしてはならない。
- ・投球後、試合状況を見る為、プレイングエリアを振り返ること、またアドバイスすることはできない。
- ・選手の位置調整、いすの位置調整、ボールの手渡し、ランプの位置調整を行うことができるが、いずれも選手発信の要望に対応しなくてはならない。
- 視覚障害のある選手への支援とアシスタントの動きについて
- ・ジャックボールまでの距離や方向を支援するため、声や手拍子による合図を送ることができる。また、投球後のボール状況を伝えることができる。（プレイングエリア内アシスタント）※ボックス内アシスタントとの重複不可。
- ・ジャックボールやカラーボールの位置関係をコート内に入って状況確認したり、ホワイトボードを利用してボールの位置関係を確認したりできる。（ボックス内アシスタント：以下ボ）※複数ボックス対応可
- ・プレイヤーからの意思表示を受け、ジャックボールへ正対する方向への支援ができる。（ボ）
- ・ボックス内のラインが分かるように、足下にマットや紐などを設置することができる。（ボ）